

輸出事業計画

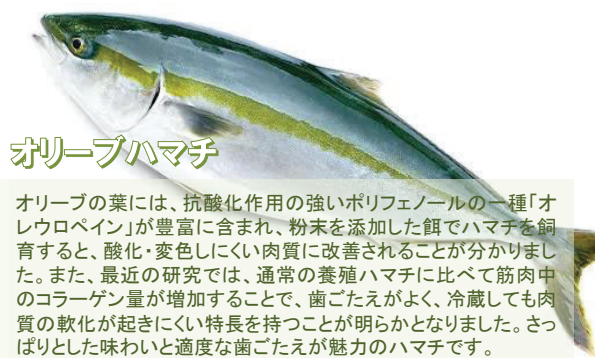
申請者名：香川県漁業協同組合連合会 品目：ぶり

1. 輸出における現状と課題

当会は水産業協同組合法に基づき昭和24年に設立されて以降、漁業協同組合及び連合会で構成する協同組合連合会として、漁場の利用調整、組合員の漁獲物等の加工・販売、営漁指導等の事業を実施。水産資源と漁業経営の安定を実現させるため、資源管理型漁業の普及啓発に努めるとともに、県や関係団体と協力して、県産ブランドハマチ等のブランド強化と販路拡大に取り組んでいる。平成19年度からは国内商社を通じたシンガポール向け輸出に着手し、ハマチ、真鯛、カンパチ、シマアジ、ヒラメを通年出荷してきた。

同時期に、県花・県木でもあるオリーブ葉を飼料に添加した餌を養殖ハマチに給餌することで、血合肉の褐変抑制に高い効果が得られることが判明した。平成21年に「オリーブハマチ」として商標登録されたのをきっかけに、当会でも既存の商流を生かしたシンガポール向けの輸出を開始した。

その後はJETRO商談会等へ積極的に参加するなど、独自のプロモーションに取り組んだ結果、平成30年度からアメリカ向け、令和2年度からタイ向けの販路開拓に成功し、一定の実績を上げている。



オリーブハマチ

オリーブの葉には、抗酸化作用の強いポリフェノールの一種「オレウロペイン」が豊富に含まれ、粉末を添加した餌でハマチを飼育すると、酸化・変色しにくい肉質に改善されることが分かりました。また、最近の研究では、通常の養殖ハマチに比べて筋肉中のコラーゲン量が増加することで、歯ごたえがよく、冷蔵しても肉質の軟化が起きにくい特長を持つことが明らかとなりました。さっぱりとした味わいと適度な歯ごたえが魅力のハマチです。



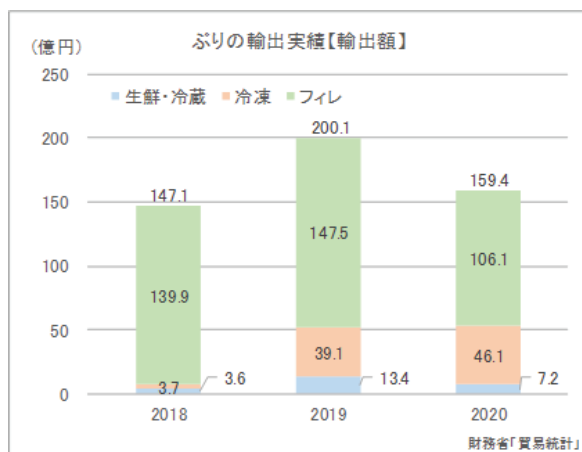
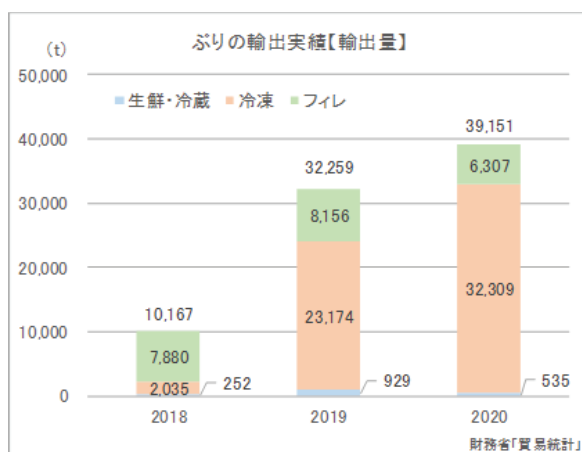
オリーブ葉の粉末を添加したモイストベレット



↑ 米國小売店の店頭で販売されるオリーブハマチ

←ポスターとのぼり旗で商品をPR

【日本からのぶり輸出実績(貿易統計)】



2. 輸出事業計画の取組内容

(1) 生産

- 人工種苗の活用検討
- 生餌の安定供給体制の整備
- 褐変抑制効果で有利性のあるオリーブハマチの生産・供給体制の整備

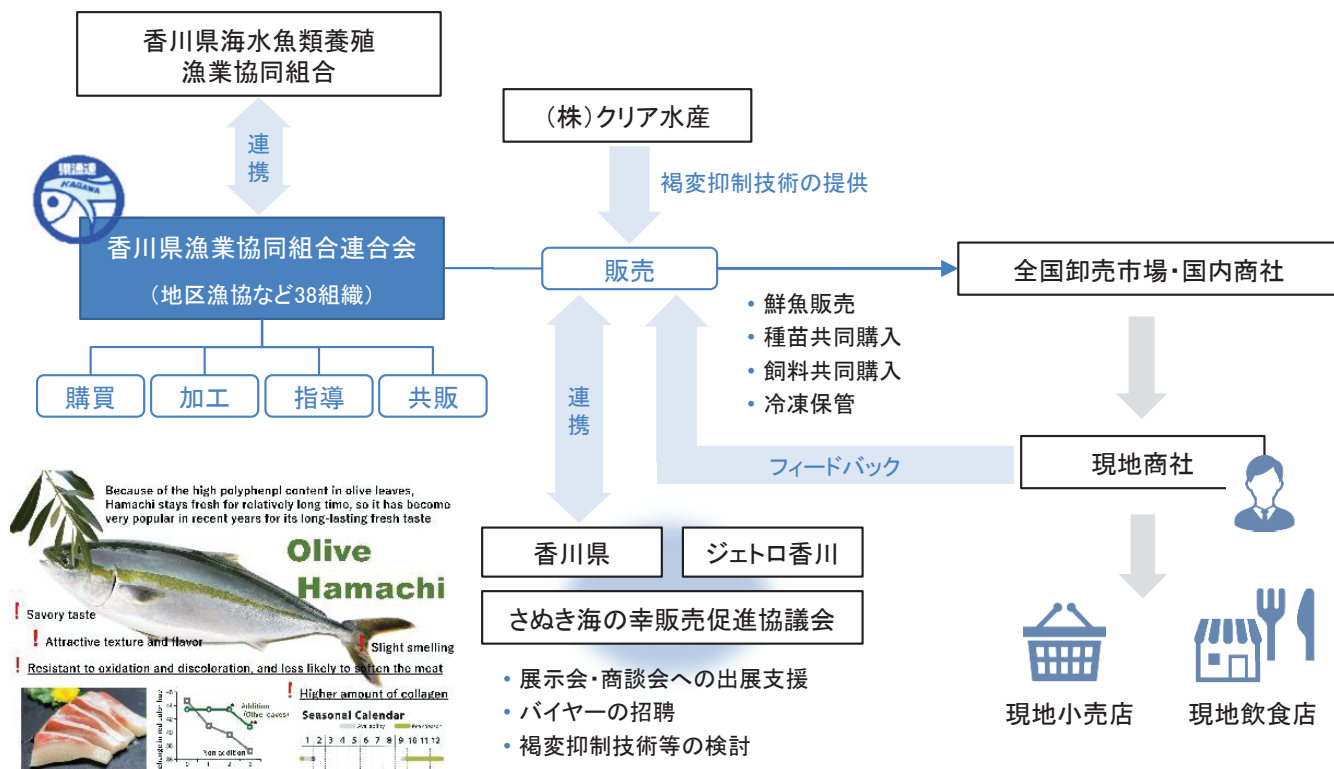
(2) 加工・流通

- 長期保存の研究開発（アメリカ・タイ向け）
- 活魚運搬コストの低減（韓国向け）

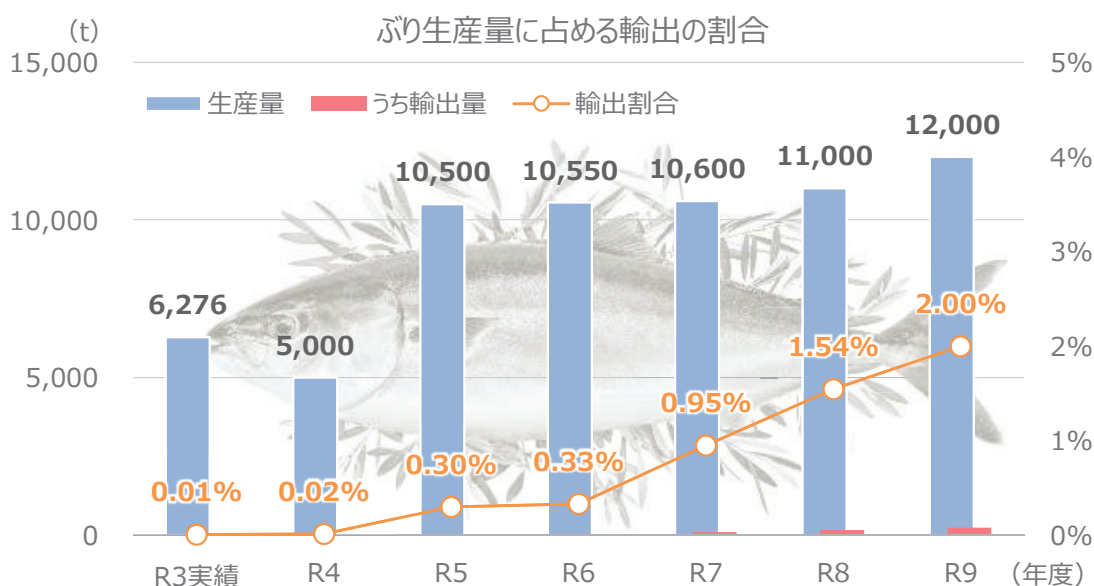
(3) 販売

- 販路開拓に向けた市場調査や商談会参加
- 神奈川県三浦市城ヶ島に整備した集出荷施設をフル活用した養殖魚の周年出荷
- オリーブハマチの認知度向上
- 各国でのオリーブハマチの商標登録

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額



項目	現 状 【2021 (R3) 年度】	目 標 年 度 【2027 (R9) 年度】
輸出額 (円)	1,144,000	323,320,000
輸出量 (t)	0.52	239
輸出先国	タイ、シンガポールなど	アメリカ、タイ、韓国、シンガポールなど
生産量 (t)	6,276	12,000